

# プロジェステロン放出腔内留置製剤(CIDR)を用いた定時人工授精法による受胎促進効果

## 【技術の背景】

- 発情発見率の低下による黒毛和種牛の空胎期間の延長が問題となっている。
- 排卵を同期化し、発情観察を行わず定時に人工授精を実施する定時人工授法としてOvsynch(オブシンク)法が活用されている。
- Ovsynch法の受胎率は約50%と低い現状にある。
- Ovsynch法の低受胎の原因は、処置中の血中プロジェステロン(黄体ホルモン)濃度の低下のためと考えられる。
- CIDRを腔(ちつ)内に留置すると血中プロジェステロン濃度は急速に上昇して高い濃度を維持できる。

## 【技術の特徴】

- **Ovsynch+CIDR法**は従来のOvsynch法に加えて処置開始から7日間CIDRを腔内に留置する新しい定時人工授精法である。
- 分娩(べん)後30日を経過すると処置が開始でき、高い受胎率が得られる。

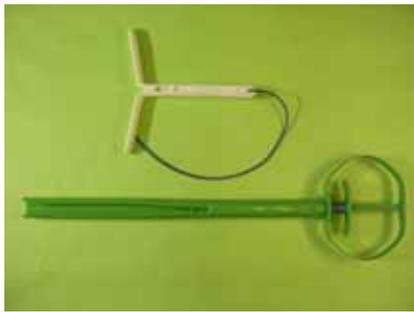


写真 CIDR(上)とアプリケーター(下)

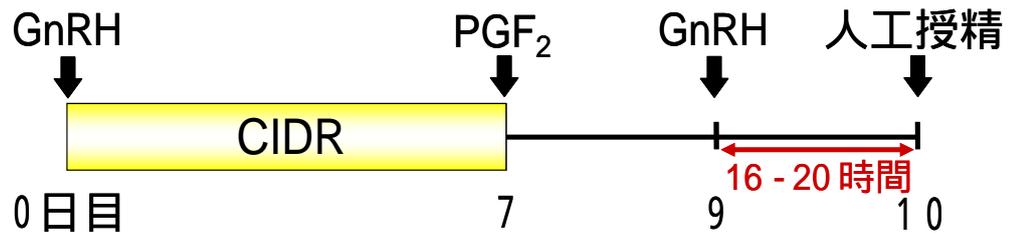


図1 Ovsynch+CIDR法のプログラム

GnRH(性腺(せん)刺激ホルモン放出ホルモン):排卵誘起作用

PGF<sub>2</sub>(プロスタグランジンF<sub>2</sub>):黄体退行作用

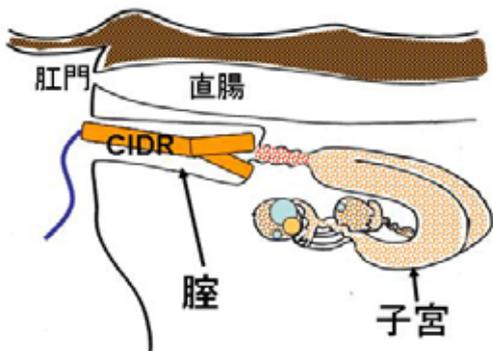


図2 CIDRを腔内に留置した状態

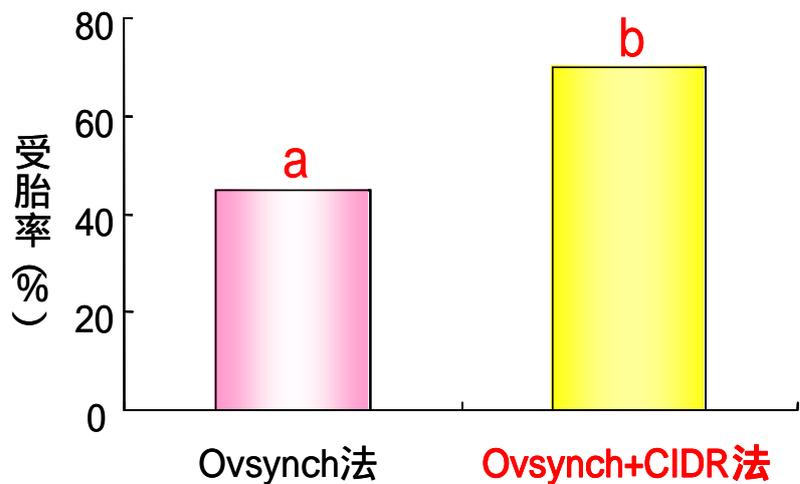


図3 受胎率の比較 a,b:P<0.05

## 【普及上の留意点】

- PGF<sub>2</sub> と2回目のGnRHの投与間隔をできるだけ48時間とする。
- 2頭以上に人工授精を実施する場合、1頭ごとに凍結精液を融解する。